

## H25 年度 SPRUC 拡大利用委員会 議事録

日時：2013年11月8日 (金) 13:30- 15:00

場所：SPring-8 中央管理棟 1階 上坪講堂

出席者：

(利用委員会委員) 中川 敦史、伊藤 敦、小澤 芳樹、小泉 昭久、有馬 孝尚、西原 遊、  
巽 修平、雨宮 慶幸、坂田 誠

(研究会代表) 梶原 堅太郎、大門 寛、林 好一、山本 孝、田尻 寛男、飯村 兼一※、  
佐々木 園、大隅 寛幸、井上 克也、木村 昭夫、中村 哲也、今田 真※、  
梶原 行夫、齋藤 寛之、壬生 攻、寺澤 倫孝、下條 竜夫、栗栖 源嗣、  
紅野 安彦、小原 真司、池本 夕佳

(幹事) 西堀 英治、原田 慈久、久保田 佳基、杉本 宏

(オブザーバー) 熊坂 崇、藤原 明比古、金 廷恩、為則 雄祐、辻 雅樹、垣口 伸二

(事務局) 坂川 琢磨

(敬称略 ※WebTV会議にて出席)

議題

1. 来年度の新しいSPRUC研究会組織についての説明
2. 最終案作成へ向けた意見取りまとめ
3. 今後のスケジュール

配布資料

資料1：スライドコピー

資料2：SPRUC 研究会組織検討に関する施設側作業部会 議事録)

資料3：BL と研究会の対応表 (tentative)

資料4：第二期研究会 募集要項

資料5：第二期研究会 設置申請書

討議事項

### 【新しい SPRUC 研究会組織についての説明】

・中川利用委員長から、これまでの SPing-8 の利用者団体の変遷および 2012 年から発足した SPRUC の運営の概略の説明のあと、来年度から始まる新しい研究会組織に関する説明が行われた (スライド：資料 1)。この中で、現状の次のような 2 つの大きな問題を挙げた。

①SPRUC は現在約 12,000 名の全 SPing-8 ユーザーが参加しており、利用者としての視点で意見の集約ができる学際的組織を目指しているが、現状の計 30 の研究会では全ユーザーの研究領域をカバーできておらず、ユーザーの約 75%は研究会に属していない。

そのため、将来の放射光施設の高度化計画などに関するユーザー側の意見を汲み上げて施設管理者側（理研・JASRI）に提言するための機能が不十分である。

②SPRUC の研究会組織は各学協会そして社会に対する説明責任が求められていることから、外部へアピールしやすく、外部からも見えやすい体制に再編する必要がある、さらに、研究会の活動自体も活性化すべきである。

・このような問題に対応するため、SPRUC 企画委員会では 2013 年 6 月から有識者で構成される「研究会組織検討作業部会」を設置して議論を進め、さらに 8 月のパブリックコメントの募集と 9 月の SPring-8 シンポジウムでのパネルディスカッションを通じた議論を経た上で、打ち出された方策として、

- (1) 研究会の所属分野を下記の 4 つに見直し、各研究会は複数選択可能とする
  - 「生命科学 (Biomolecules)」
  - 「物質基礎 (Fundamental Characterization)」
  - 「物質応用 (Applied Materials)」
  - 「計測 (Measurements)」
- (2) 各研究分野を縦軸に、そしてビームラインを横軸にとり、その交点が研究会に相当するような研究会構成を明確化することにより、SPRUC と各ビームラインで展開されている研究分野との密接な関係が外部からも理解しやすくなるうえ、SPRUC 会員の研究会加入者の増進が期待できる
- (3) 各立場の会員に対して、研究会加入の重要性を認識してもらうようアピールすると共に、より多くのユーザーをカバーするために、産業利用や理研・原研・各大学などの各専用ビームラインの関係者が参加できるような研究会の新設を研究会組織検討作業部会により誘導する
- (4) 分野融合型“研究グループ”を時限付きで設定し、重点的な予算配分を行う。テーマの設定は、今後設置する有識者からなる研究会顧問が立案する

という計画の説明があった。また、施設側の作業部会から研究会に対しての提言（資料 2）についての説明があった。

以上の説明について、以下の議論があった。

#### 【SPRUC 会員の研究会への登録率向上について】

- ・ 委員から、現在の研究会は縦軸にある研究分野を主体としている場合が多いため、BL そのものを主体とした形で研究会を設置すれば、ユーザーの研究会への参加・登録が増えるのではないかという意見があった。
- ・ これについては、雨宮会長からは、どちらもメリットとデメリットがあり、研究会の主体を昔の BL の建設のフェーズのように BL を中心にしたものにあまり重みを置きすぎないようにして、サイエンスやその出口を意識したものへのバランスを考慮し

たい。ただし、SPring-8 II 計画のことを考慮すると、そういった BL への重みを増やしたほうが良いという趣旨の意見も受け止めるという説明があった。

- ・ 委員から、研究会への登録人数が増えた場合の現実的な問題を挙げると、研究会の代表者から研究会活動について連絡の e-mail などを配信しても返信が全くないような、いわゆる、ゆうれい会員が増えてしまい、必ずしも良い効果がでるとは限らないという懸念が指摘された。
- ・ これに対して中川委員長からは、活発な議論や活動は積極的な会員によって研究会を牽引してもらって、活発でない会員の存在もある程度許容しても良いのではないかという意見があった。

#### 【SPRUC 研究会の役割と施設との関係について】

- ・ 委員から、研究会の役割そのものについて整理して考えるべきであり、SPRUC の研究会に未登録である 75% の会員の意見をとるためには、研究会以外のパスも必要ではないか、という意見があった。たとえば、SPring-8 II 計画は研究会レベルよりは BL レベルの問題であり、この計画に対するコメントは企画委員会で各研究会と BL の意見をまとめるべきではないか。SPRUC は個人会員がベースの組織であり、これを実際に運営する方法として研究会とビームラインが基礎となるはず。他分野の組織であるため研究会の見方と BL の見方も違うわけであり、それをまとめるということで SPRUC としての意見を集約するというのが良いのではという提案があった。
- ・ 雨宮会長から、4 つの分野分けのうち、縦軸に計測という分野があり、これは BL の手法を主体にした研究会というのを想定している。先ほどの質問にもあったような BL の研究会はこれに該当するというようにも考えていただきたいとの説明があった。
- ・ 委員から、研究会側で集約した要望や意見を SPRUC 組織へ上げて、返答や報告を実行してもらわないと、新しい研究会をつくっても何も変わらないという意見があった。個別の問題でも SPRUC で取り扱ってもらえるのか、あるいは別のパスを考えたほうが良いのかどうか。例えば BL の方向性についての要望がある場合には、迅速な行動が必要となる場合もあるとのこと。要望を出したらやはりその答えが欲しいが、施設からどのような経路で要望者側へ返答があるのかも明確になっていないのが現状だという指摘があった。別の委員からも、個人の要望に全部対処するのは難しいが、研究会からの要望については、SPRUC として対応状況を説明すべきであるという意見が出された。
- ・ これらに対して雨宮会長・中川委員長・西堀幹事から説明があり、SPRUC としての意見を集約して施設へ提言するための方法は 2 種類あり、一つは大きな問題に関しては作業部会を随時つくるとのこと。もう一つは、要望に対してはしかるべき担当者に取り次ぐ事という説明があった。特に施設側にとっても解決が困難な事例についてはどうしても棚晒しになる場合も多々あるが、これらの指摘を重く受け止めて、取り

次いだ結果をフィードバックして経過を明確にするように今後一層改善したいとの返答があった。

- ・ 委員から、次期研究会の設置申請をする際に関連する BL を指定するようにとの案内があったが、当研究会では分光装置を BL に搬入しなければならず、どこの BL でも受け入れてくれているわけではない。現状では、特に決まった BL があるわけではなく、研究会の人から利用したいという意見ももらった場合にも BL をはっきりと特定できないという課題を抱えている。そういう特殊な場合には申請の際に相談はどこにしたらよいかという質問があった。
- ・ この質問について中川委員長から、申請に関してそういった特殊な場合については事務局に連絡いただければ随時対応するという返答があった。

#### 【SPRUC の体制について】

- ・ 委員から、自分の大学の代表機関会議に出席してその任にあたっている代表の方が誰なのか知らないし、その方が SPring-8 の運営については必ずしも専門の方とは限らないのではないかという質問があった。
- ・ これについては、雨宮会長から、ユーザーを多く抱える各機関から研究担当の理事クラスの方に就任いただいて年に 1 回の代表機関会議を開催している。ユーザーである研究者側にとっては、代表機関会議に出席する各所属機関の理事クラスの代表者に対して SPring-8 を使って研究成果をあげていることをアピールできるし、SPring-8 に対する要望や意見を諮問的に取り纏めることも可能であると考えている。誰が就任しているかは SPRUC の HP で公開しているので、そういった情報交換の機能として個人レベルでもうまく活用していただきたいという説明があった。

#### 【分野融合型の研究グループについて】

- ・ 来期から設置される課題解決・分野融合型の研究グループについて、委員から、以下の二つの指摘があった。
  - (1)この編成で注意すべきは、キーワードが先行しすぎると誤解を招く恐れがある。研究の実施のどこかでビームラインが根ざしているということを示すべきであり、SPring-8 はモノづくりをしているわけではないので課題解決そのものを行うわけではなく、課題解決という方向性をもって放射光科学側から参画するという捉え方のほうが良い
  - (2)もう一つは、SPring-8 は他の手法分野と予算的な競争があるということや予算当局の政治的な判断も密接な関係があるという観点からは、このような活発な研究会組織の体制は SPRUC が課題に取り組んでいるユーザー団体であるというのを外部へアピールするのに重要である
- ・ この意見については、雨宮会長からは、新しい研究会グループが、例えば科研費の

新学術領域などの大型ファンド立案の核になるような発展をしていくことを期待しているとの説明があった。

【今後のスケジュールと第2期研究会設置申請について】

- 中川委員長より来期の研究会募集についての説明が行われた（関連資料：資料4および5）。今回の議論をもとに、利用委員会で次期研究会組織の素案をまとめ、作業部会のメンバーの意見を11月中に取りまとめ、12月のパブリックコメントを募集した上で2014年1月の放射光学会開催中の評議員会で新研究会の設置募集要項について承認を受けた上で、3月中に当利用委員会で申請の審査が行われて、来年度4月の評議員会の承認を得て新しい組織が発足するというスケジュールになっているという説明があった。
- 2014年2月初旬にSPring-8ワークショップが開催される見通しであることがアナウンスされた。2/1（土）～2（日）を含めた2-3日間の日程を候補にしている。特に大学関係者は多忙な時期であるが、全分野が一同に介して来期の新しい研究会組織へ向けた活性化の最初のステップとしてとらえて各研究会・会員に参加の協力をいただきたいとの説明があった。

以 上